

Global Digital Transformation Partner

2026年3月期 第3四半期決算 補足説明資料



2026年1月30日

トランスコスモス株式会社

1. エグゼクティブサマリ
2. 連結損益計算書サマリ
3. 連結売上高の増減分析
4. 連結売上高の増減分析（四半期推移）
5. 連結売上高の増減分析（BPOサービス）
6. 連結売上高の増減分析（CXサービス）
7. 連結売上高の増減分析（海外関係会社）
8. 連結営業利益の増減分析
9. 連結営業利益の増減分析（四半期推移）
10. 単体サービス 営業利益の増減分析
11. 親会社四半期純利益の増減分析
12. 連結貸借対照表の概要
13. 設備投資・減価償却・従業員数・サービス拠点

Appendix :

- 顧客の所在地を基礎として国または地域に分類した海外売上高
- 3Q 活動トピックス

連結売上高
2,929.0億円

(対前年 +130.4億円/+4.7%)

連結営業利益
134.1億円

(対前年 +22.8億円/+20.5%)

親会社四半期純利益
104.2億円

(対前年 +28.4億円/+37.4%)

- 売上高は対前年+4.7%の増収となり、第3四半期累計として過去最高売上高を更新。営業利益（営業利益率 4.0%⇒4.6%）は第3四半期累計として過去最高益の水準（コロナ関連業務の影響のあった2021年3月期～2023年3月期を除く）
- BPOサービス売上高は対前年+8.7%増収、営業利益率は+0.4pt上昇
 - デジタルを活用したBPOサービスの受注が拡大し、業界共通型・業界特化型BPOサービス共に売上が増加
- CXサービス売上高は対前年+4.3%増収、営業利益率は+0.5pt上昇
 - 統合型CXプラットフォーム「trans-DX for Support」の導入社数が122社に拡大し、デジタルコンタクトセンターの売上が増加。デジタルインテグレーションは受注が回復傾向
- 海外の売上高は対前年+3.5%（為替影響除く外貨ベース+6.9%）増収、営業利益率は-0.2pt低下
 - 中国・韓国でCXサービスの売上が好調。為替マイナス影響も縮小
- 親会社四半期純利益は、営業利益の増加に加え、為替差益の増加や特別損失の減少などにより対前年+28.4億円の増益

2. 連結損益計算書サマリ

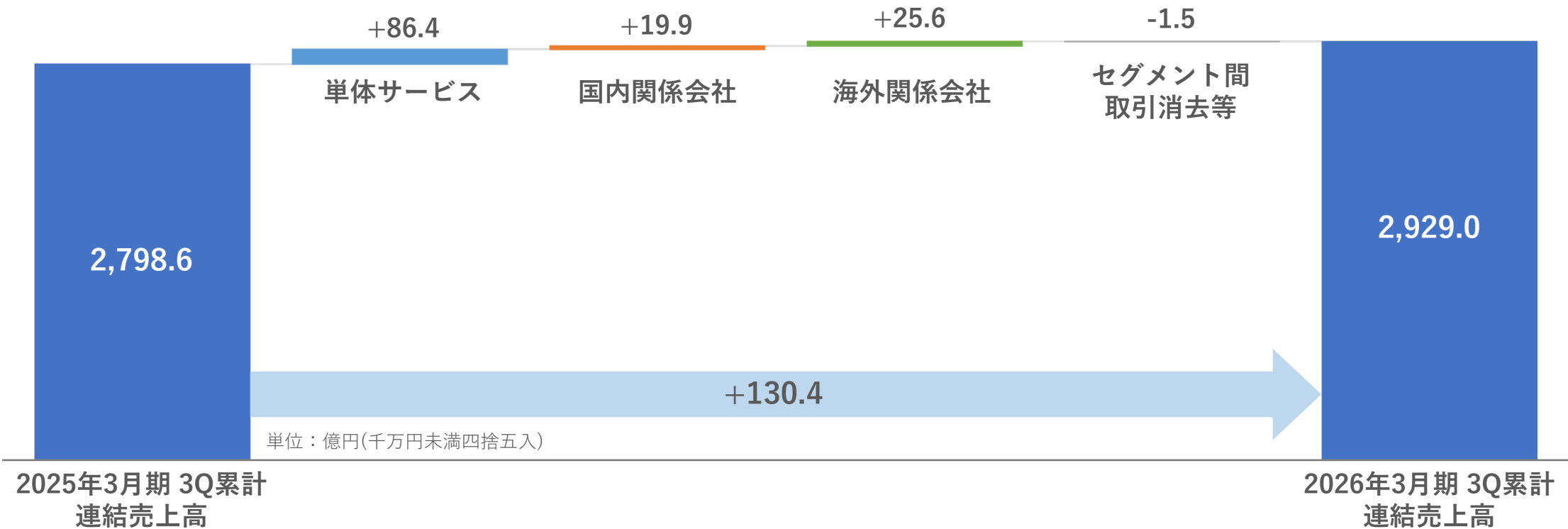
単位：億円(千万円未満四捨五入)		2025年3月期 3Q累計		2026年3月期 3Q累計		前年同期比		2026年3月期（予想）	
		金額	売上比	金額	売上比	増減額	増減率	金額	進捗率
売上高		2,798.6	100.0%	2,929.0	100.0%	+130.4	+4.7%	4,000.0	73.2%
	単体サービス	1,824.6	65.2%	1,911.0	65.2%	+86.4	+4.7%		
	国内関係会社	322.9	11.5%	342.7	11.7%	+19.9	+6.1%		
	海外関係会社	752.7	26.9%	778.3	26.6%	+25.6	+3.4%		
	セグメント間取引消去	-101.5	-3.6%	-103.0	-3.5%	-1.5	-1.5%		
売上総利益		537.2	19.2%	572.6	19.5%	+35.4	+6.6%		
販管費		425.9	15.2%	438.5	15.0%	+12.6	+3.0%		
営業利益		111.3	4.0%	134.1	4.6%	+22.8	+20.5%	155.0	86.5%
	単体サービス	54.3	3.0%	73.6	3.8%	+19.2	+35.4%		
	国内関係会社	22.8	7.1%	26.6	7.8%	+3.8	+16.7%		
	海外関係会社	35.1	4.7%	34.7	4.5%	-0.4	-1.1%		
	セグメント間取引消去	-1.0	-	-0.8	-	+0.2	+17.2%		
営業外損益		13.9	0.5%	21.2	0.7%	+7.2	+52.1%		
経常利益		125.2	4.5%	155.3	5.3%	+30.1	+24.0%	170.0	91.3%
特別損益		-8.7	-0.3%	-1.3	-0.0%	+7.5	+85.7%		
親会社四半期純利益		75.8	2.7%	104.2	3.6%	+28.4	+37.4%	115.0	90.6%

※ 各セグメント利益の売上比は、各セグメント売上高に対する比率として記載しています。

3. 連結売上高の増減分析

- 売上高 増加：+130.4億円（+4.7%）

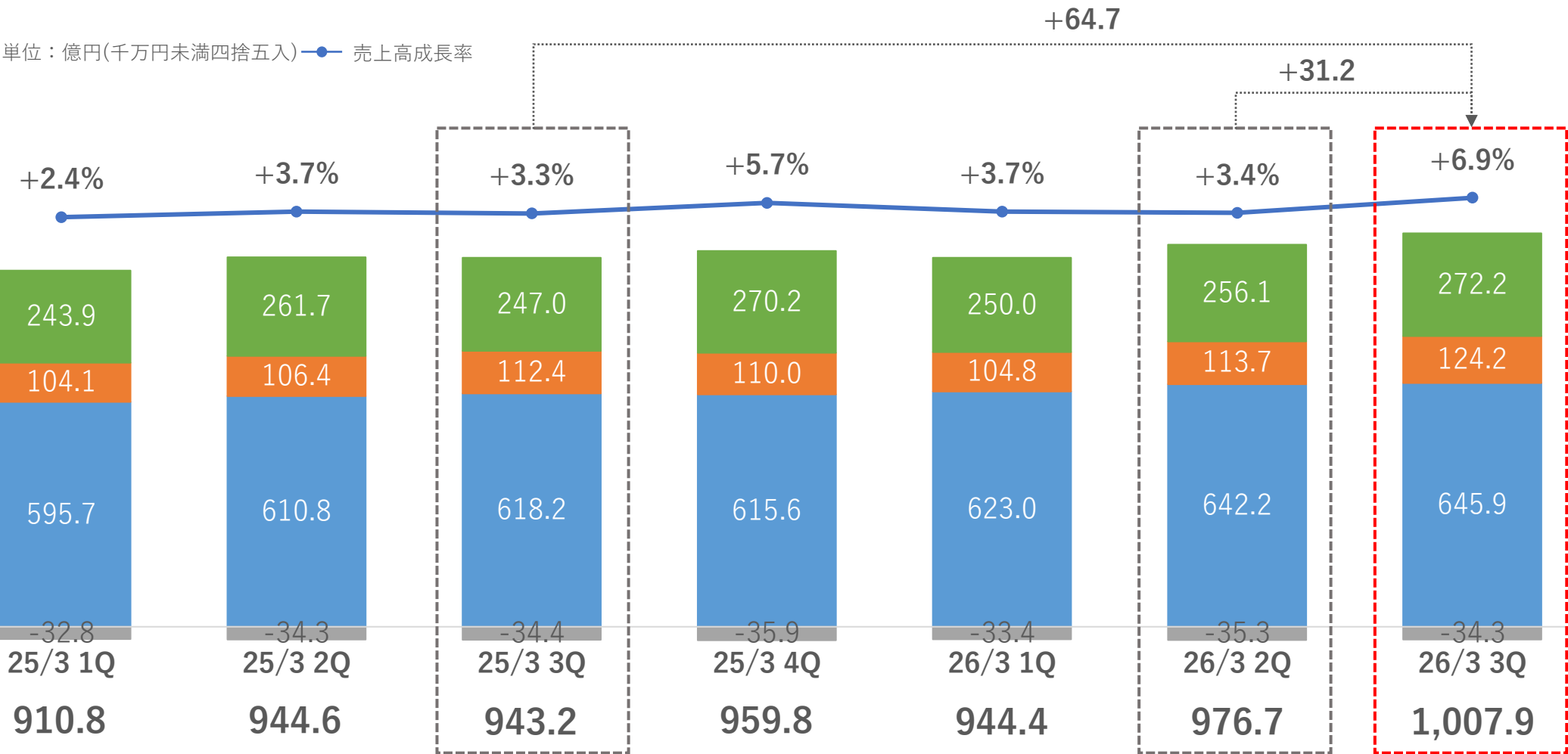
単体サービス	CXサービスおよびBPOサービスの売上増加で+86.4億円の増収
国内関係会社	BPO合併会社の受託範囲拡大や新規連結などで+19.9億円の増収
海外関係会社	中国・韓国子会社のCXサービスの売上増加で+25.6億円の増収



4. 連結売上高の増減分析（四半期推移）



- 四半期売上高として過去最高売上高を更新
- YoY：全セグメントで売上が増加し+64.7億円の増収。25/3期1Qから7四半期連続で増収
- QoQ：全セグメントで売上が増加し+31.2億円の増収



CXサービス (連結売上高構成比 約70%)	
マーケティングからカスタマーケアまで カスタマージャーニー全体にわたる デジタル顧客接点をカバーする統合サービス	
日本	デジタルコンタクトセンター カスタマーサポート
	デジタルインテグレーション Webサイト/アプリ構築・改善・運用、 SNS運用/LINE活用
	デジタルプロモーション インターネット広告サービス
	ECワンストップ ECサイト構築・運用・フルフィルメント
海外 (主にコンタクトセンター・EC) 韓国・中国・東南アジア・欧米	

BPOサービス (連結売上高構成比 約30%)	
業界共通のコーポレートバックオフィス業務 (会計、人事、IT など)と業界特有の業務 のアウトソーシングサービス	
日本	業界共通型デジタルBPO 経理・人事・調達購買・受発注・営業事務、 ITシステムの運用保守などの業務をサポート
	業界特化型デジタルBPO 自動車・機械・建設などのシステム・業務をサポート
海外 韓国・中国・東南アジア・欧米	

5. 連結売上高の増減分析（BPOサービス）

※ サービス別売上高は、管理会計上の総売上高をベースとしており、またセグメント間取引消去分は考慮していません。

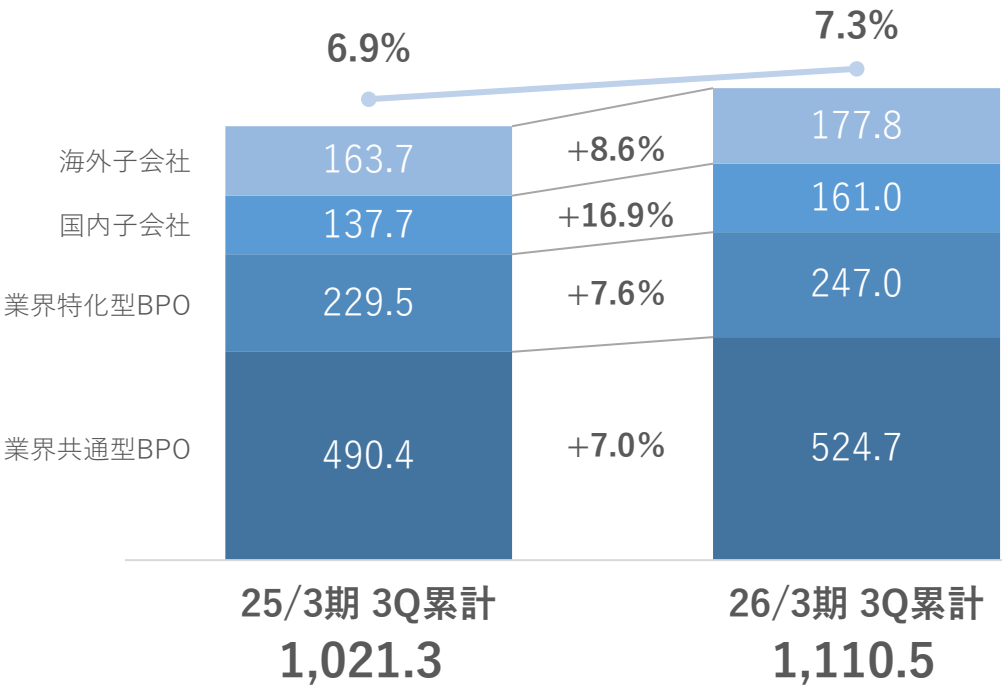


- BPOサービスの売上高は+8.7%の増収、営業利益率は+0.4pt上昇。デジタルを活用したBPOサービスで受注拡大
- 業界共通型BPOは、新規案件の増加などで+7.0%の増収
- 業界特化型BPOは、既存案件の拡大で1社当たり売上高が増加し+7.6%の増収

単位：億円(千万円未満四捨五入) ● 営業利益率

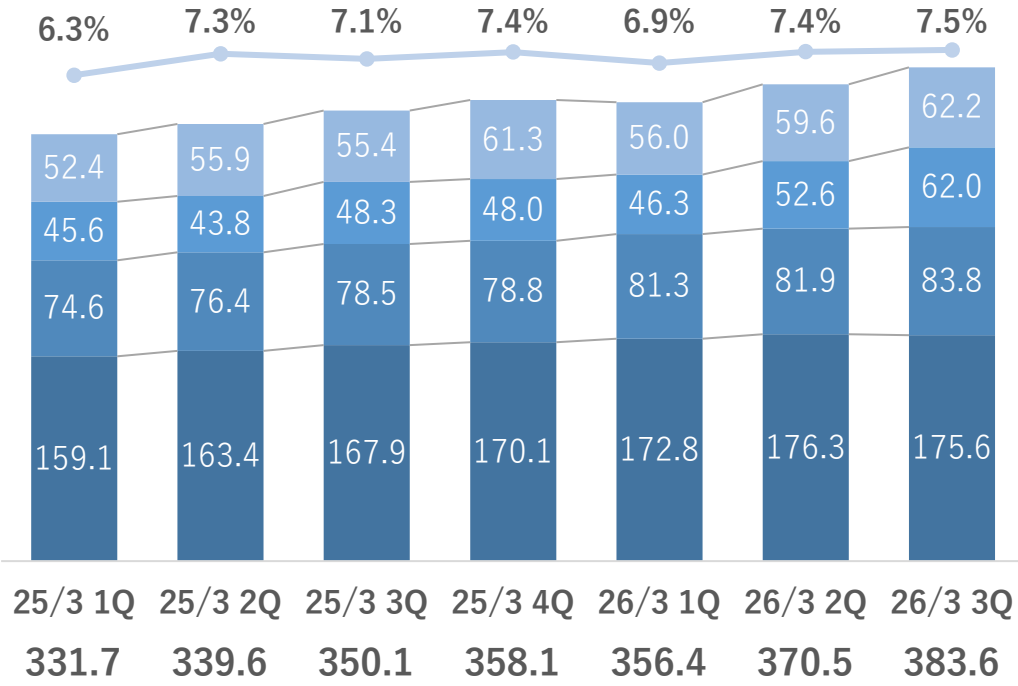
前年同期比（3Q累計）

売上高 +89.1億円/+8.7%、営業利益率 +0.4pt



四半期推移（3Q）

YoY：売上高 +33.5億円/+9.6%、営業利益率 +0.5pt
QoQ：売上高 +13.1億円/+3.5%、営業利益率 +0.1pt



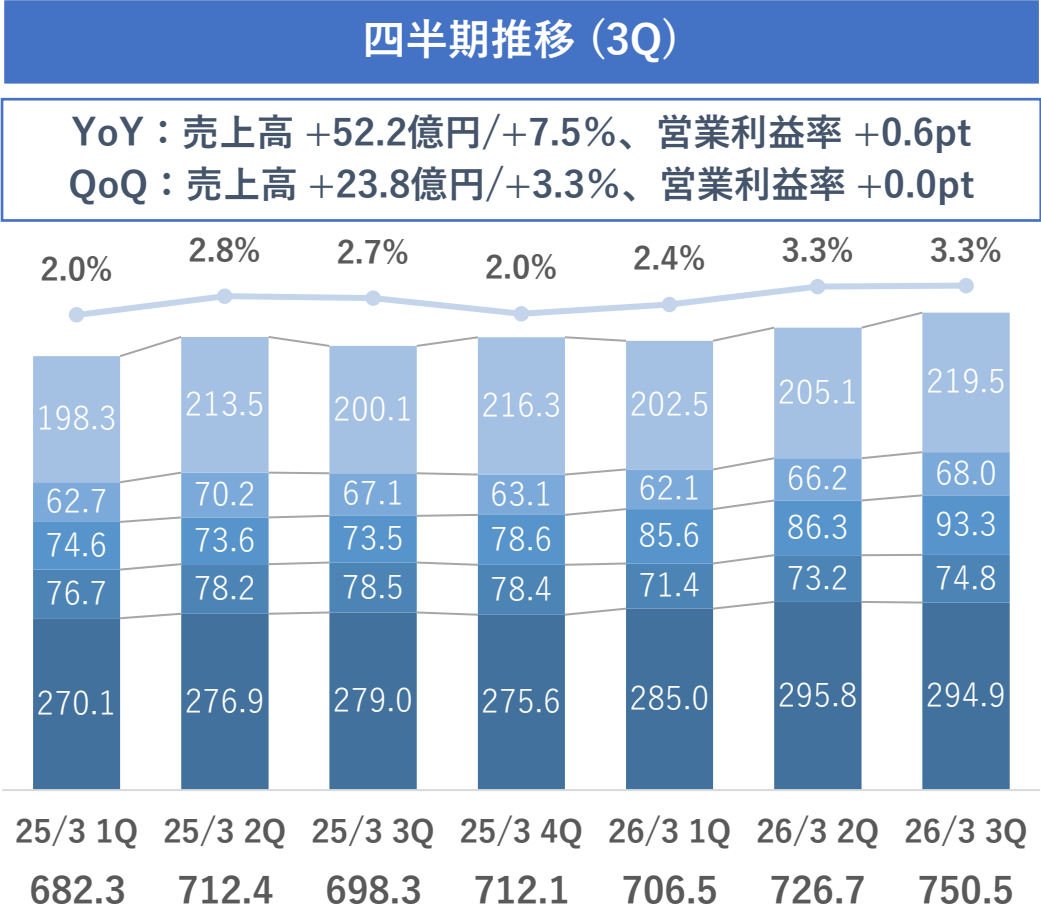
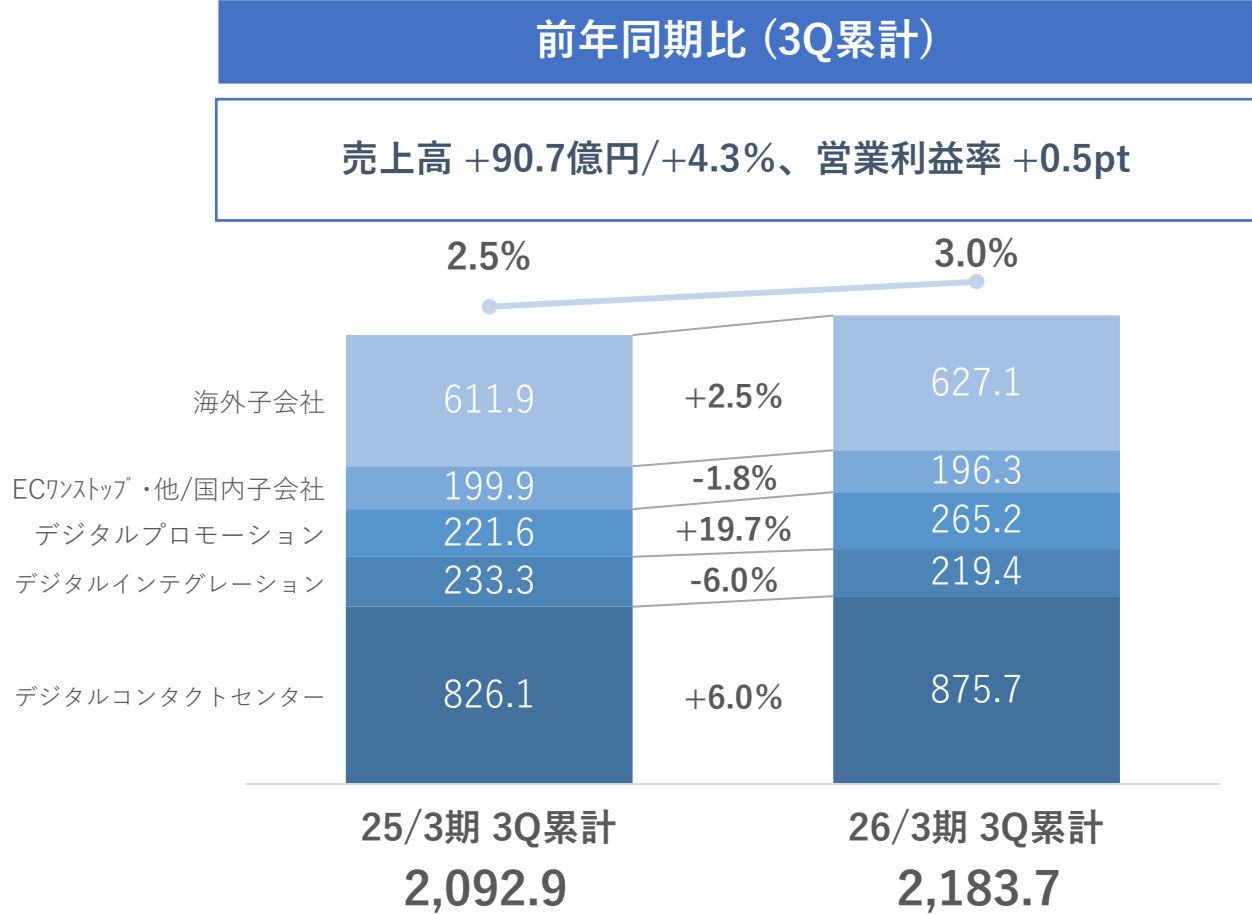
6. 連結売上高の増減分析（CXサービス）

※ サービス別売上高は、管理会計上の総売上高をベースとしており、またセグメント間取引消去分は考慮していません。



- CXサービスの売上高は+4.3%の増収、営業利益率は+0.5ポイント上昇。統合型CXプラットフォーム「trans-DX for Support」の導入社数が122社に拡大
- デジタルコンタクトセンターは、新規案件の増加や1社当たり売上高が増加し+6.0%の増収
- デジタルインテグレーションは、既存大型案件の縮小などで-6.0%の減収だが、受注は回復傾向

単位：億円(千万円未満四捨五入) ● 営業利益率



7. 連結売上高の増減分析（海外関係会社）

※ 顧客の所在地を基礎として国または地域に分類した海外売上高は、P19をご参照ください

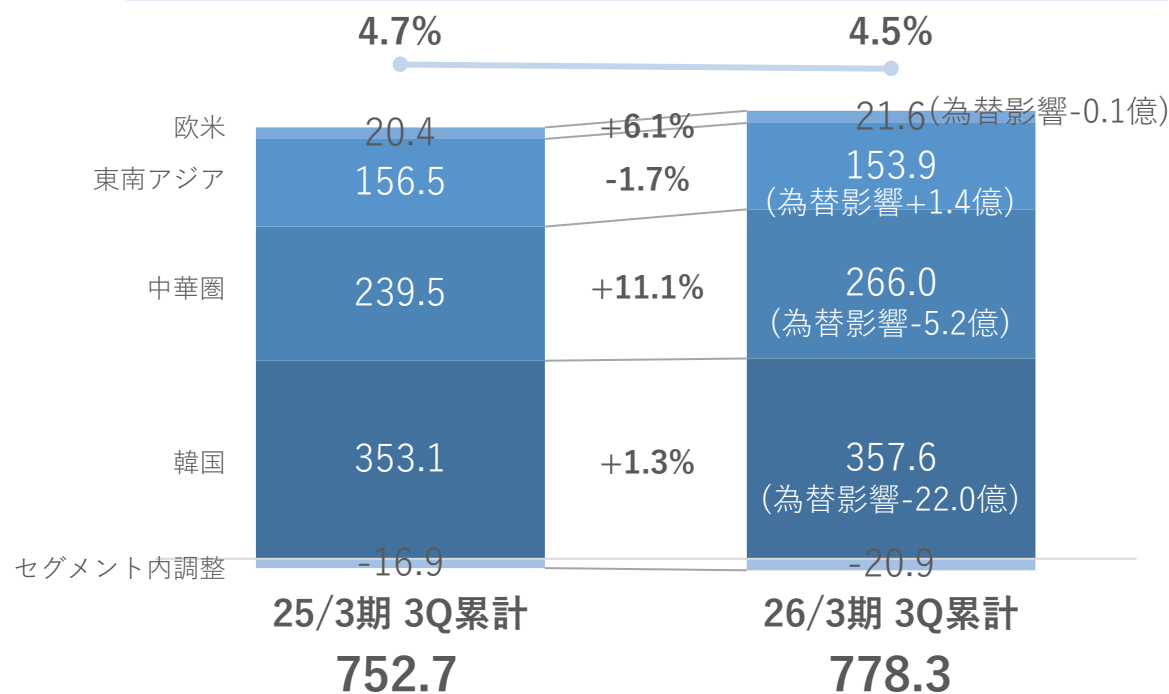


- 韓国：+1.3%の増収。デジタルコンタクトセンターの売上が好調。外貨ベースでは+7.5%の増収
- 中華圏：+11.1%の増収。デジタルコンタクトセンターおよびECの売上が好調。外貨ベースでは+13.3%の増収
- 東南アジア：-1.7%の減収。大型グローバル案件の売上が減少。外貨ベースでは-2.6%の減収
- 欧米：+6.1%の増収。欧州子会社の売上が増加。外貨ベースでは+6.6%の増収

単位：億円(千万円未満四捨五入) ● 営業利益率

前年同期比（3Q累計）

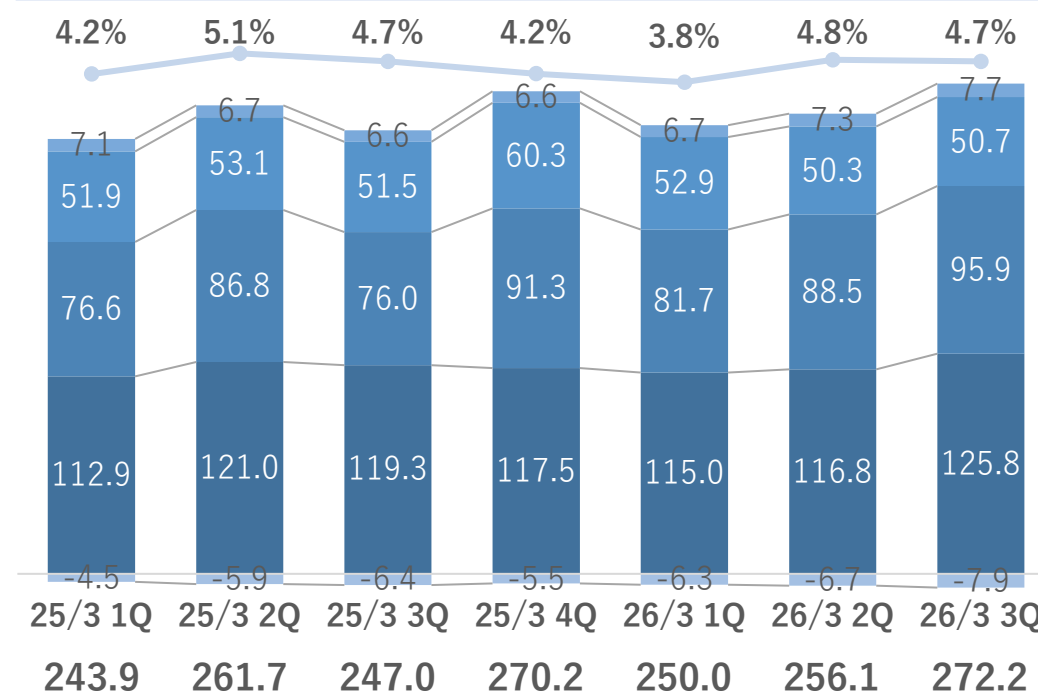
売上高 +25.6億円/+3.4%、営業利益率 -0.2pt



四半期推移（3Q）

YoY：売上高 +25.1億円/+10.2%、営業利益率 +0.0pt

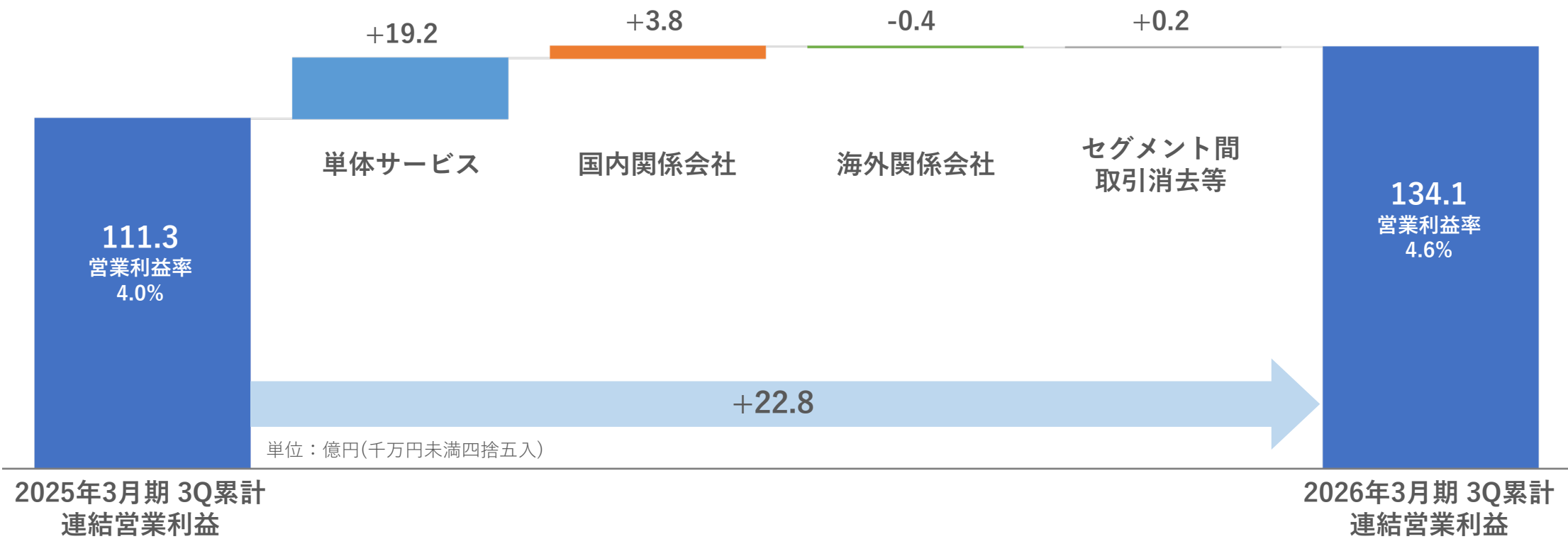
QoQ：売上高 +16.0億円/+6.3%、営業利益率 -0.1pt



8. 連結営業利益の増減分析

- 営業利益 増加：+22.8億円（+20.5%）

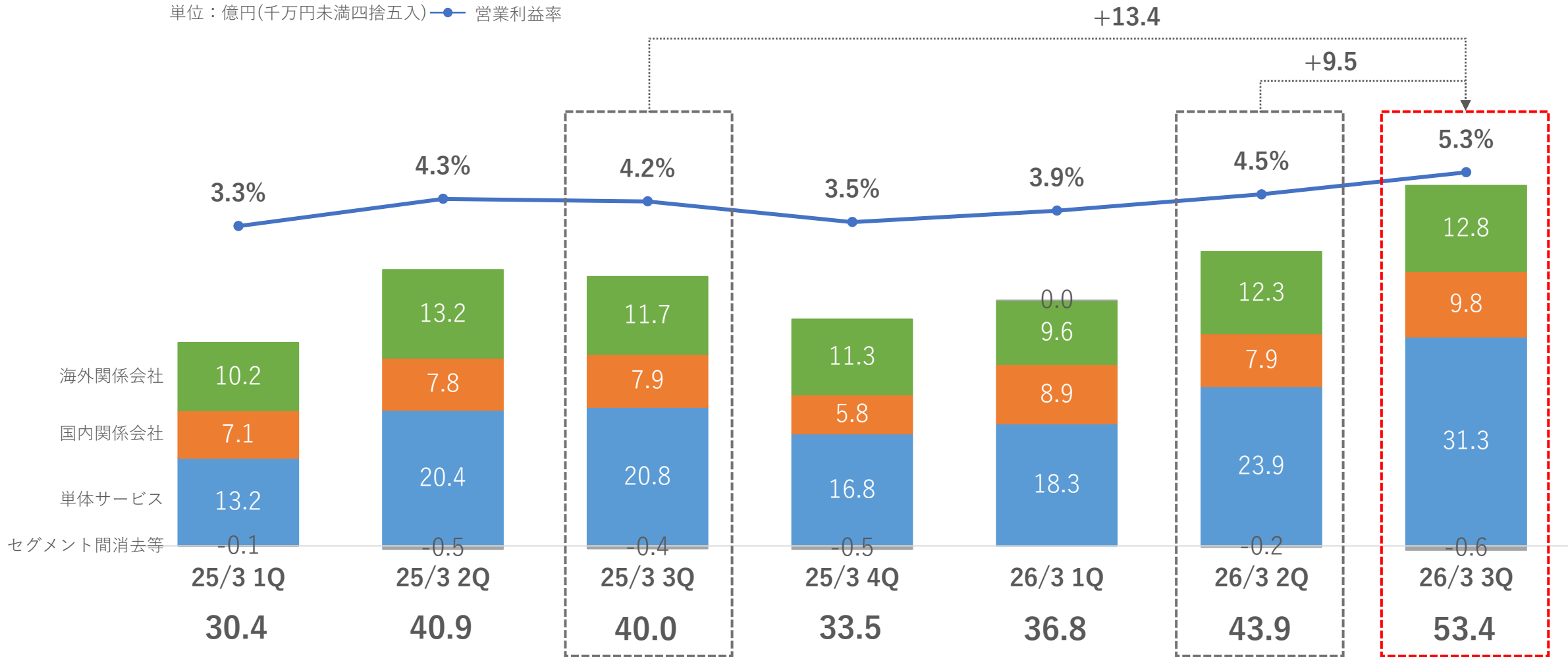
単体サービス	CXサービスおよびBPOサービスの収益性改善で+19.2億円の増益
国内関係会社	上場子会社の利益増加などで+3.8億円の増益
海外関係会社	中国・韓国子会社は利益増加、欧米子会社は事業再編の進展で収益性改善。一方、東南アジア子会社の利益減少で-0.4億円の減益



9. 連結営業利益の増減分析（四半期推移）

- YoY：全セグメントで営業利益が増加し+13.4億円の増益。営業利益率は+1.1ポイント上昇
- QoQ：全セグメントで営業利益が増加し+9.5億円の増益。営業利益率は+0.8ポイント上昇

単位：億円(千万円未満四捨五入) —●— 営業利益率



10. 単体サービス 営業利益の増減分析



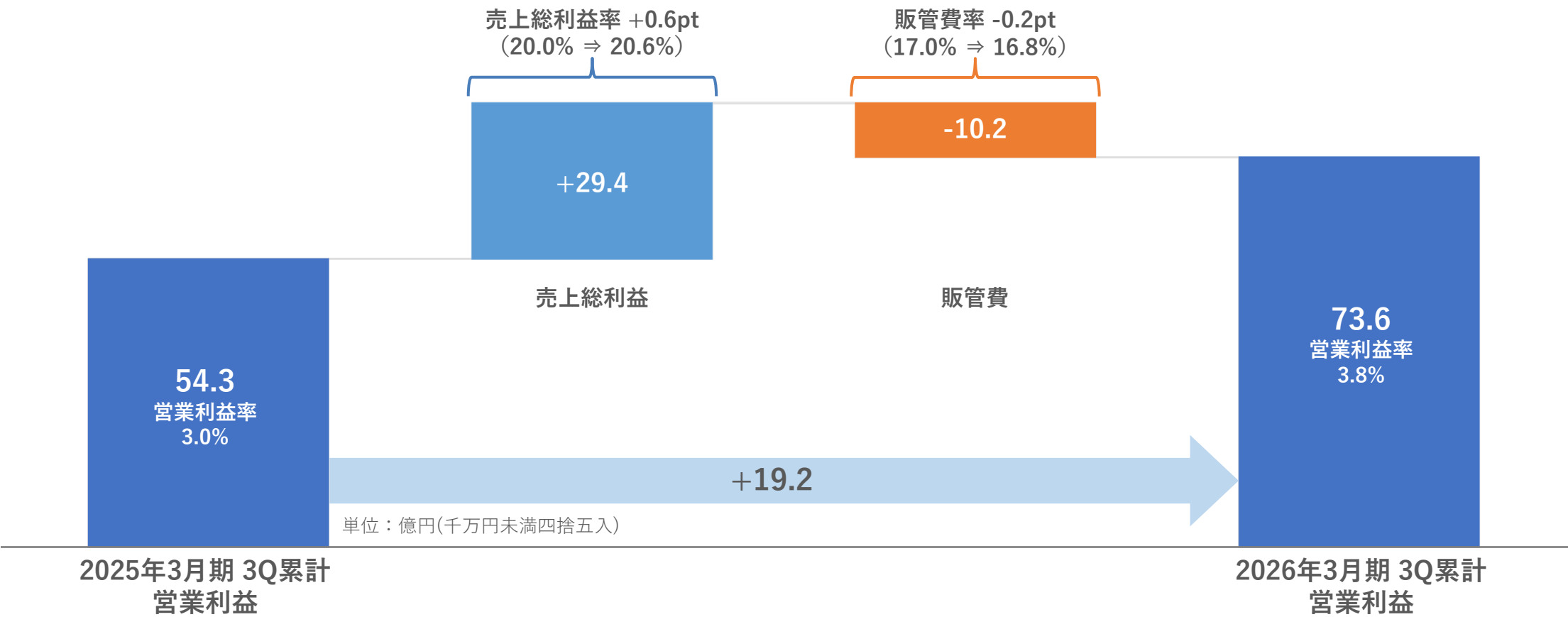
- 営業利益 増加：+19.2億円（+35.4%）

売上総利益

売上増加、稼働率上昇、価格交渉の進展に加え、来期からの人事制度改定に伴う一時的な原価コスト減少の影響などで売上総利益率が+0.6ポイント改善し+29.4億円の増益

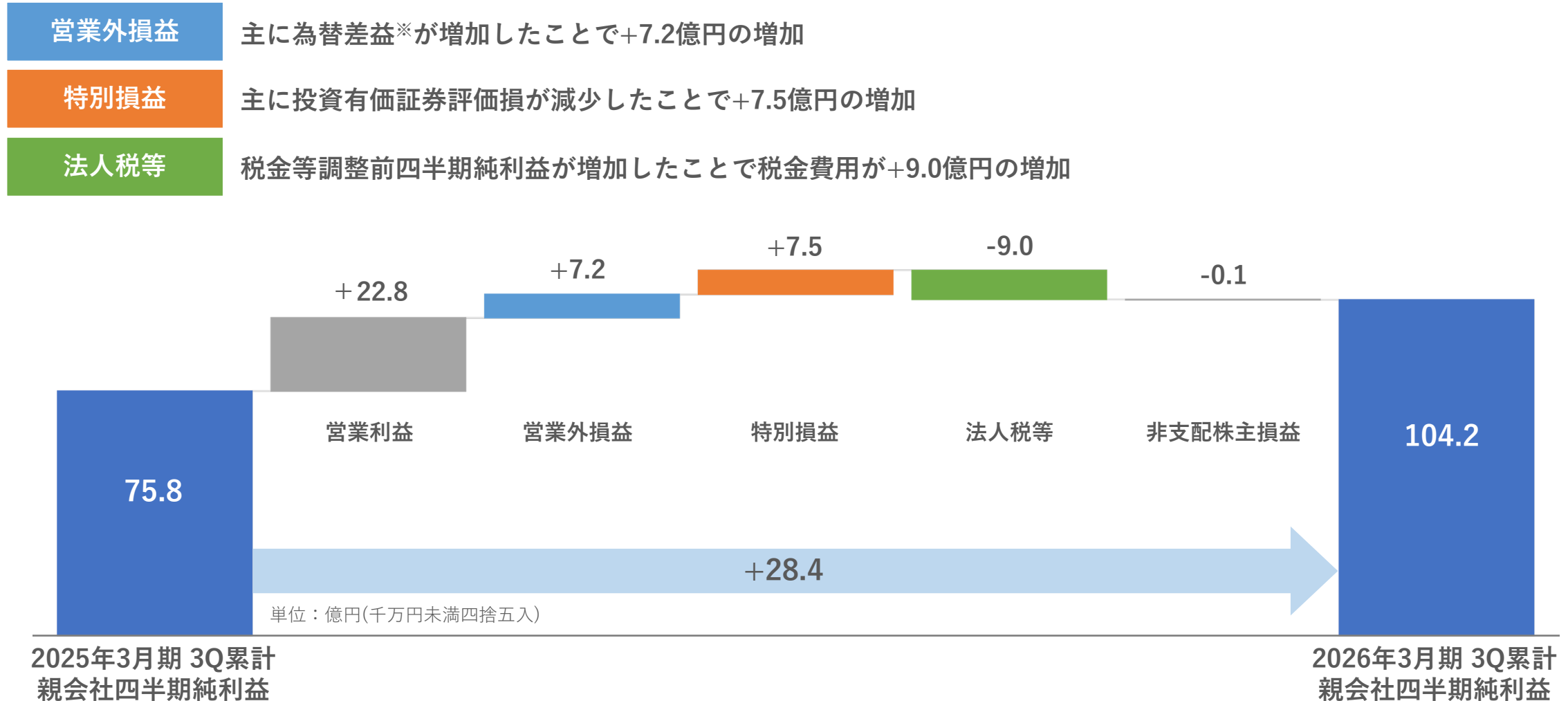
販管費

情報セキュリティ向上、グループガバナンス強化、AI活用など中期事業成長に向けた戦略投資の実施で+10.2億円増加したが、全体として販管費率は-0.2ポイント改善



11. 親会社四半期純利益の増減分析

- 親会社四半期純利益 増加：+28.4億円（+37.4%）



※ 主に保有する外貨建債権は、当期末（2025年12月末）の為替レートで換算しております。当第3四半期においては、主に米ドルに対する為替が前期末に比べて円安に振れた影響などで為替差益が増加いたしました。

12. 連結貸借対照表の概要

- 資産：「受取手形、売掛金及び契約資産」や「現金及び預金」が増加
- 負債：「未払費用」や「買掛金」が増加
- 純資産：「利益剰余金」が増加、「為替換算調整勘定」が減少

単位：億円(千万円未満四捨五入)	2025年3月末	2025年12月末	増減額	
流動資産	1,546.6	1,620.1	+73.5	<ul style="list-style-type: none"> 現金及び預金 +25.9 受取手形及び売掛金 +29.1
固定資産	533.3	524.8	-8.5	<ul style="list-style-type: none"> 繰延税金資産 -10.9
資産合計	2,079.8	2,144.8	+65.0	
流動負債	620.1	760.5	+140.4	<ul style="list-style-type: none"> 買掛金 +19.8 1年内償還予定転換社債 +100.2 未払費用 +23.3
固定負債	169.0	49.7	-119.3	
負債合計	789.2	810.3	+21.1	<ul style="list-style-type: none"> 転換社債 -100.3 (利息計上 -0.1、1年内振替 -100.2) 長期借入金 -20.1
純資産	1,290.7	1,334.6	+43.9	
負債・純資産合計	2,079.8	2,144.8	+65.0	<ul style="list-style-type: none"> 利益剰余金 +64.5 為替換算調整勘定 -23.8
現預金	735.0	761.0	+25.9	
有利子負債	165.3	146.6	-18.7	
Netキャッシュ*	569.7	614.4	+44.7	
Netキャッシュ*月商倍率（倍）	1.8	1.9	+0.1	

*Netキャッシュ=現預金－有利子負債

13. 設備投資・減価償却・従業員数・サービス拠点

● 設備投資額・減価償却費

単位：億円(千万円未満四捨五入)	2025年3月期 3Q累計	2026年3月期 3Q累計	増減率
設備投資額	27.0	31.4	+16.0%
減価償却費	43.3	41.4	-4.2%

- 設備投資額
単体・海外子会社の設備投資が増加
- 減価償却費
海外・国内子会社の減価償却費が減少

● 従業員数

	2025年3月末	2025年12月末	増減
連結従業員数	41,682	43,850	+2,168
(臨時従業員数)	28,971	28,163	-808
単体従業員数	17,910	18,257	+347
(臨時従業員数)	21,002	20,911	-91

- 連結
国内関係会社は、業務拡大や新規連結の影響などで従業員数が増加。海外関係会社は、中国・韓国において新規案件の増加や既存業務の拡大などに伴って従業員数が増加。臨時従業員は、東南アジアで一部案件の縮小に伴い減少
- 単体
新卒採用で従業員が増加

● サービス拠点

	2025年3月末	2025年12月末	増減
サービス拠点	184	185	+1
(国内サービス拠点)	72	72	-
(海外サービス拠点)	112	113	+1

- 国内
センターを一部統廃合、BPOセンター福岡大名を新設
- 海外
インドネシアにセンター新設

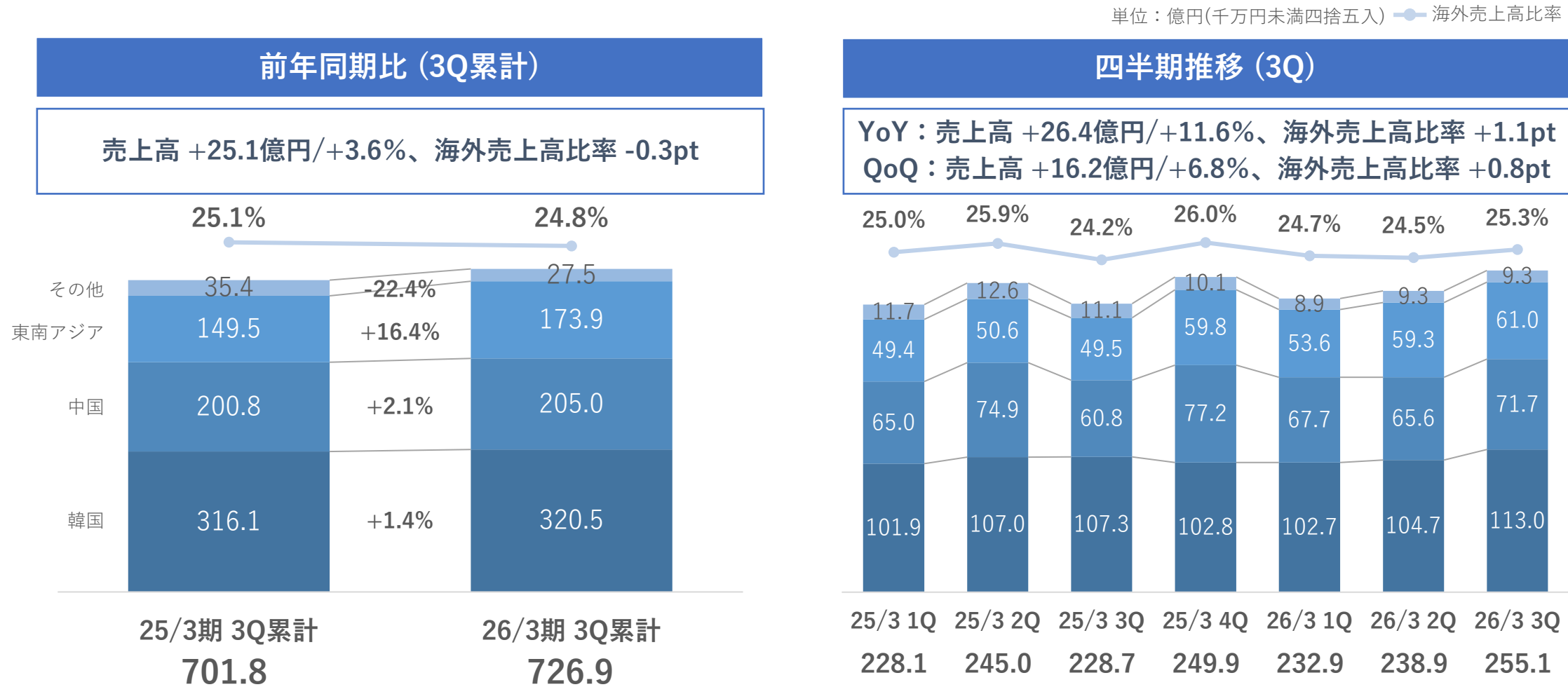
*サービス拠点は、自社サービス拠点のほかに本部・支社・営業所・関係会社・パートナー等の拠点も含む

Appendix

顧客の所在地を基礎として国または地域に分類した海外売上高



- 顧客の所在地を基礎として国または地域に分類した海外売上高は726.9億円（対前年+3.6%）、海外売上高比率は24.8%（対前年-0.3pt）



サービスの開発・強化

- 物流2024年問題と物流2法への対応を支援する物流統括管理者向けサービスを拡大
- 顧客体験（CX）の“見えない課題”を可視化 20業界のトップ企業100社のコミュニケーション体験評価調査レポートを提供開始
- 自治体向けに市民の健康増進を支援するサービスの提供を開始
- 「プライバシーコンサルティングサービス」をPriv Techと共同で提供開始
- 日本国内およびASEAN拠点の豊富な人材を活かし、AIトレーニング・アノテーションサービスの提供を開始
- 運営するエンターテインメント越境ECサイト「Geek Jack」にて株式会社VとVRChatにおけるメタバースクリエイターサービスを提供開始

サービス体制の強化（アライアンス・パートナー・M&A・拠点など）

- トランスコスモスとArent、建設現場のデータを自動で統合・蓄積・活用するサービスプラットフォーム「Connectix Build」を共同で開発
- 建設業・製造業に向け業務変革を支援する「BPOセンター福岡大名」を開設

サービスの提供実績／受賞・認定・その他企業活動など

- 沖縄県那覇市消防局主催の「那覇市救急フェア」に参画
- 「コンタクトセンター カスタマーハラスメント対策推進企業」に認定
- コンタクトセンター・アワード2025」において「審査員特別賞」を受賞
- 札幌市で開催された「ミニさっぽろ2025」に参加

サービスの提供実績／受賞・認定・その他企業活動など

- トランスコスモスと渋谷未来デザイン、Robloxで「FIND THE HALLOWEEN SHIBUYA」を公開
- 「バトンのヨコク カンファレンス 2025」に協賛
- トランスコスモス 取締役 相談役 船津康次が「藍綬褒章」を受章
- Robloxにてバンダイの人気IP「たまごっち」の公式施策『Find Tamagotchi』を11月6日公開
- Metaが主催する「Meta Agency First Awards Japan 2025」において「Vertical New Hero – 不動産部門」を受賞
- 「LINEヤフー Partner Award 2025」において「Best Planner」を受賞
- 「グッドギビングマーク」活用企業として参加
- 消費者はAIの誤回答で25%が問題解決をあきらめて離脱、53%が有人窓口へ。今年で10回目を迎える「消費者と企業のコミュニケーション実態調査2025-2026」の結果を公開
- 「Microsoft 広告 Partner Awards 2025」において「データインテグレーション・エクセレンス・アワード」を受賞
- 職場におけるLGBTQ+への取り組み評価指標「PRIDE指標2025」で最高位ゴールドを2年連続受賞
- 「福岡国際マラソン2025」へ企業版ふるさと納税を活用し寄附
- 全国SNSカウンセリング協議会が実施する闇バイトや特殊詐欺に関する「LINE」を活用した無料相談事業に協力
- 世界のEC市場を解説した書籍『海外ECハンドブック2025』を発刊

※上記はプレスリリース発表の降順で記載しています

サービス体制の強化（アライアンス・パートナー・M&A・拠点など）

- トランスコスモスとビービーエフ、海外企業の日本市場への進出支援で業務提携
- 韓国最大手ロジスティクス企業であるCJ大韓通運と戦略的パートナーシップを締結
- ベトナムの開発子会社がホーチミン市外国情報技術大学（HUFLIT）とMOUを締結

受賞・認定・その他企業活動など

- 中国で「金耳唼杯」デジタルサービスベンチマーキング企業 年間トップ10を受賞
- 中国子会社が30周年記念式典を開催
- 韓国で「読書経営優秀職場」最優秀賞を受賞

- 本資料に含まれる将来の予測に関する記載は、現時点における情報に基づき判断したものであり、今後、日本経済、株式市場の動向や情報サービス業界の動向、新たなサービスや技術の進展により変動することがあります。従って当社として、その確実性を保証するものではありません。
- 本資料では、金額は千万円未満を四捨五入、%は小数点以下第2位を四捨五入で、それぞれ表記しています。



IRに関するお問い合わせ
トランスコスモス株式会社
コーポレート統括 IR推進部
ir_info@transcosmos.com